



(上)ヨシ原にひそむナナフシ。擬態の名人。
(下)里山の美しい風景。

里山はワクワク・ドキドキの宝箱

小雨交じりの七月一日、ぼくは、八王子市にある長池公園の里山に宝探しに出かけました。そこでは、本物の宝にも負けない、キラキラと輝く生命を持った素敵生き物たちとの出会いがありました。

里山新聞

2017年
5年生
西尾 優杜

里山と一緒に歩んでいく。

早朝の里山には、
目を離したら見失っ

てしまう擬態の名人

ナナフシがいたり、葉の裏にはアオドウがネや力ミキリムシがかくれていて、本当に宝探しをしてい

る。ようでワクワクしました。また、初めて食べた木の実の甘さにおどろき、自分で作った草笛で吹いたドレミの歌の音さに爆笑しました。

里山の豊かな自然は、人が手入れをし、使うことで保てます
が、最近は、人々が里山に関心を持たなくなってしまった。里山の世話ををする人を育てる活動が必要だとこしたことを探して、本当に宝探しをしていった。里山は、すべてが遊び場で、ぼくが父親になつても、子どもと一緒に宝探しをしたい素敵なお場所です。皆さんも、里山に関心を持ち、この宝を未来へ残すため、里山と一緒に歩んでみませんか？